

# 全酪連会報

1

2020 JAN No.652



## 新年の御挨拶

代表理事会長 砂金甚太郎  
農林水産省生産局長 水田正和

酪農とのかけはし/  
澤西良和さん

酪農業に対する  
理解醸成活動報告 後編

令和元年度  
全酪連会員職員研修会 前編

日本酪農見て歩紀/  
大井牧場  
北海道雄武町

酪農トピックス/  
全国大会発表者 千葉澄子さん語る  
「ワンチーム!の酪農経営」(札幌)ほか

酪政連活動報告

栄えある秋の叙勲・褒章



[www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/](http://www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/)



全国酪農業協同組合連合会

ZEN  
RAKUREN

# 新年の御挨拶

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

日頃より、弊社事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和2年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて昨年1年の酪農をめぐる情勢を振り返りますと、国内においては、昨年も自然災害に悩まされた年となりました。特に9月と10

月にそれぞれ発生した台風15号及び台風19号は、記録的な暴風と豪雨を伴って列島を縦断し、道路寸断による集乳不可、長期停電による生乳廃棄など、各地の酪農経営に甚大な被害をもたらしました。今なお完全な復旧に至らない地域もございます。改めて被害に遭われた酪農・乳業関係者に心からお見舞いを申し上げます。

また一昨年の4月から改正畜産経営安定法が施行されましたが、いわゆる「いいとこ取り」など当初から予想されていた問題、ある

いは予想もしなかったような問題などが表面化したしました。これまでに培ってきた生乳需給や価格形成の制度が根本から揺るぎかねない深刻な事態であり、全酪連としても当然に看過できる問題ではなく、行政や関連団体との連携のもと、今後の動向に注視していく必要があります。

国外に目を向けますと、長期化する米中貿易摩擦により世界経済は依然として先行き不透明な状況が続いており、我が国酪農に直結する貿易問題については、一昨年末以降、TPP11、日・EUのEPAが相次いで発効し、日米貿易協定も昨年10月に最終合意に至りました。この協定が発効した場合、国内乳製品の生産額は最大で250億円近い減少が見込まれるとの試算もあり、酪農家の将来への不安は尽きません。

こうした諸問題に加えて、我が国の酪農は、都府県を中心に酪農家戸数、生乳生産量の減少が依然として続いております。

その一方で国内の牛乳・乳製品の需要は堅調に推移しています。牛乳・乳製品の備える栄養学的な価値などに対する理解が進んできており、こうした好材料を少しでも活かしつつ、いかにして我が国酪農生産基盤の維持・拡大を図っていくか、酪農専門農協の全国連である全酪連に課せられた大きな役割であると考えております。

本年は、全酪連の3ヶ年の事業方針となる第十一次中期事業計画の最終となる総括の年でございます。今後も引き続き、全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、搾乳後継牛の確保や酪農後継者・新規就農者への支援などの主要施策を着実に実行してまいります。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

# 年頭の御挨拶

農林水産省生産局長

水田 正和



明けましておめでとうございます。  
令和2年という新しい年を迎えるにあたり、  
一言、御挨拶を申し上げます。

まず、去年は豪雨、台風といった災害やそれに伴う浸水、長期間の停電等が酪農・乳業界に大きな被害をもたらしました。被災された全ての皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災農家の経営再開・維持が可能となるよう、現場の御要望を踏まえて復旧、復興に全力で取り組んでまいります。

さて、我が国酪農は、高齢化や後継者不足による酪農家戸数の減少等に伴って、乳用牛の飼養頭数も長らく減少傾向で推移してきましたが、平成30年からは2年連続で増加するなど、近年回復傾向となっております。一方、

生乳生産量は、北海道は増加傾向にあるものの、都府県の生産基盤の弱体化により、全国的には減少傾向が続いています。国産生乳の需要が堅調な中、北海道からの生乳移送も限界に達しているという指摘もあり、今後、北海道に加え、都府県の生産基盤の強化を図っていく必要があります。

農林水産省としては、日米貿易協定への対応を踏まえて昨年12月に見直された「総合的なTPP等関連政策大綱」に肉用牛・酪農の増頭・増産対策等が、同じく昨年末に策定された「農業生産基盤強化プログラム」に、肉用牛及び酪農の生産基盤強化が位置付けられたことから、意欲ある生産者が将来にわたって希望を持って酪農経営に取り組んでいただけるよう、これらの対策に集中的に取り組んでいくこととしています。

具体的には、令和元年度補正予算などにより、酪農の生産基盤の強化のために必要な乳用後継牛への増頭奨励金の交付、畜産クラスター事業の規模拡大要件の緩和、後継者不在の家族経営の経営資源の継承の円滑化、家畜排せつ物処理施設の設置・改修等への支援等を推進してまいります。

我が国の人口が減少傾向で推移すると見込まれる中、中長期的に成長が見込まれる海外市場を積極的に開拓することは、国産牛乳乳製品の需要の維持・拡大を図る上で極めて重要な課題です。

政府の重要施策として位置付けられている輸出促進に関しては、昨年末「農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律」が成立し、政府一体となって更なる輸出促進に向けた体制の構築が図られたところです。乳製品の輸出についても、アジアやヨーロッパをはじめとする国・地域において、日本の乳製品が評価されるよう、引き続き輸出環境の整備に取り組んでまいります。

昨今の牛乳乳製品の需要は、飲用向けが堅調に推移するとともに、チーズやアイスクリームが増加しています。また、近年需要が

踊り場を迎えているヨーグルトについても、機能性等が着目されている中、長期的に見れば今後の伸びが期待される製品です。こうした牛乳乳製品の需要に応えていくためには、我が国酪農・乳業がしっかりと連携し、安全で良質な国産牛乳乳製品を安定的に供給することが何よりも重要です。農林水産省としても、新商品の技術開発や需要拡大が期待される製品の製造ラインへの転換などの各種事業を留意し、国産牛乳乳製品が安定的に供給されるよう後押ししてまいります。また、供給条件が不利な地域への学校給食用牛乳の供給等を引き続き支援するとともに、関係団体等と連携しながら、酪農に対する消費者の理解増進や、科学的知見に基づいた牛乳乳製品の情報提供等に努めてまいります。

本年は酪農の生産基盤の強化に向けた対策を着実に実施することにより、我が国の酪農・乳業の一層の発展に努めてまいります。

皆様におかれましては、昨年にも増して、酪農行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

# 酪農との かけはし



## 第23回 伊那酪ヘルパー組合 酪農ヘルパー

伊那谷の酪農家と  
この地に住む皆様が持続的に  
暮らすその一助として

### 澤西 良和さん

愛知県春日井市生まれ  
伊那酪ヘルパー組合酪農ヘルパー



▲ 本人

#### これまでと現在

愛知県で生まれ、静岡大学工学部を卒業したのち、空調設備会社の設計部・工事部、機械製造会社の設計業務など異動や転職を経験。大阪、東京をはじめ各地で仕事をしましたが、田舎暮らしに憧れ長野県伊那市に職を得て移住。その後、平成30年

3月に伊那酪ヘルパー組合の酪農ヘルパーとして勤め始め、同年7月から専任ヘルパーへ、現在は月に約20日伊那酪農業協同組合（小松平一代表理事組合長）組合員に対する酪農ヘルパーに就いています。

#### 業務内容

酪農家さん（伊那酪農協組合員）

が休みが必要な時、酪農家さんに代わって酪農業務を行っています。仕事内容は、飼槽清掃、子牛への哺乳、飼料給与、搾乳です。ヘルパー業務の前には農家さんと事前打合せし、注意点と作業の確認を行っています。治療中やクセのある牛の情報を

畜主さんから聞き、畜主と同等の業務を遂行することで、牛にもストレスなく過ごしてもらおうことを考えています。また作業で得た情報は他のヘルパーさんとミーティングをして情報共有し、皆が常と同じ作業ができるよう心掛けています。

#### ヘルパーになろうと思ったきっかけ

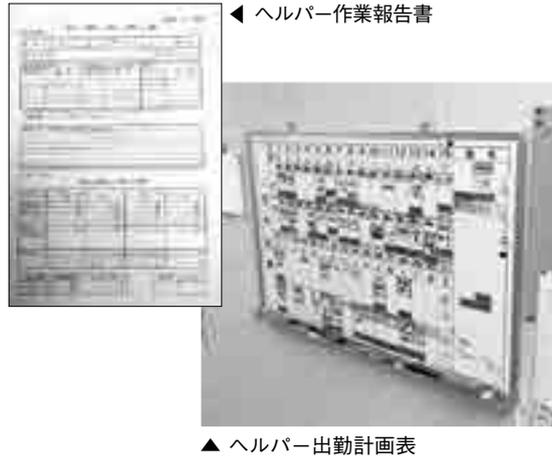
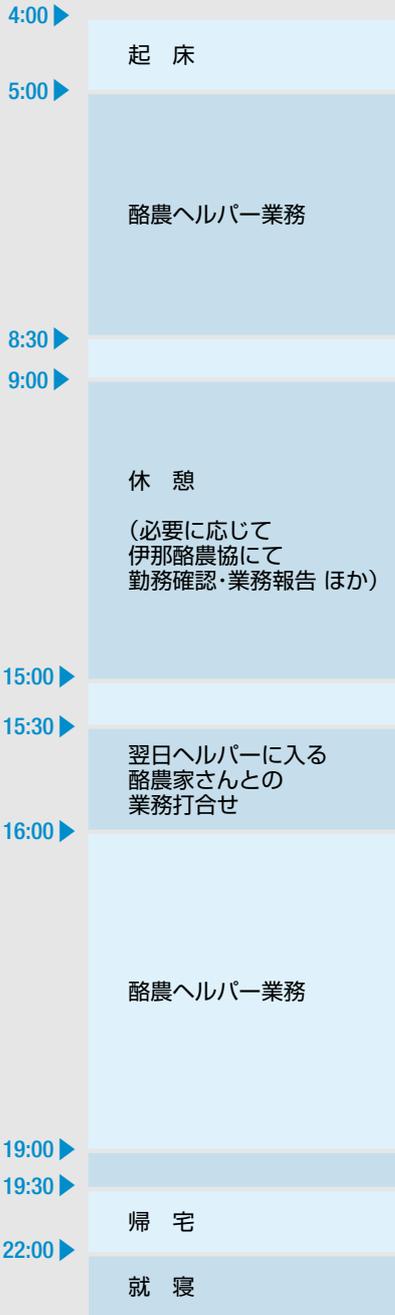
会社員時代は、1日中デスクワークに縛られる働き方に納得できず、40歳を過ぎ今後の働き方を変える必要を感じていました。職を探していた時に妻が酪農ヘルパーの募集を見し、転職に賛成してくれました。これまでの人生で自分が酪農に関わ



▲ 伊那酪ヘルパー組合のヘルパー仲間

ることなど全く想像もしていませんでしたが、住んでいる同じ地域は酪農家さんも多く、地域に関わりながら助け合える酪農ヘルパーという仕

## 澤西 良和さんの 1日のタイムスケジュール



◀ ヘルパー作業報告書

▲ ヘルパー出勤計画表

事に希望を感じました。地区の新年行事の際に近くの酪農家さんにお話ししたところ組合に連絡を取って頂き、全くの未経験者でも研修制度やこれからの経験を積んで仕事を覚えればいいと歓迎してくれました。酪農ヘルパーに就くにあたり、3か月間伊那酪農協で研修を受けました。

### 考えていること

酪農家さんが少し休みたい時の助っ人が自分たちです。畜主さんと遜色ない酪農業務を代行できるよう、基本作業の徹底を心がけています。ヘルパーに入った後に、組合員さんから「ありがとう、おかげで心も体もリフレッシュできて、また頑張れそうだ！」と言われた時には、やりがいを感じます。また牛は本当に身体が大きく力強く、気分や状態によっても違うため、ケガなどしないよう注意が必要ですが、やはりかわいいです。言葉は通じないと分かっていてもやはり作業中は何かと声を掛けてしまいますが、反応を返してくれるとなんだか嬉しくなります。

酪農ヘルパーは早朝からの業務開始ですが、会社勤務だった頃の始業

時間に一仕事終えている事も多く、朝から充足感を感じます。ヘルパー業務は朝と夕方に集中しており、作業は毎回完了するので、一連の作業を完了するたびに達成感があります。酪農ヘルパーになってからは早寝早起きの規則正しい生活になりました。空いた日中の時間を自由に出るのもこの仕事の魅力です。今はパラレルワークとして在宅やオ



## 全国の酪農家に一言!

伊那谷には人生の先輩である酪農家さん、後を継ぐ同年代の酪農家さん、自分より若い酪農家さんがまだまだ多くいらっしゃいます。これまで休みなく働いてきた酪農家さんもこれからのライフスタイルを築いていく酪農家さんも安心して任せてもらえるように。またこの地で新しく酪農を始めたいという方にも一助となれば、この地で暮らすものとして嬉しいです。

伊那酪ヘルパー組合では酪農ヘルパーを募集しています。  
酪農ヘルパー職に興味のある方は伊那酪農協までご連絡ください。

☎ 0265-78-2724

フィスでパソコンを使った仕事もしています。今後は酪農ヘルパーを続けながらこの伊那谷の特色を活かした商品の研究・開発を考えています。



# 酪農業に対する 理解醸成活動報告

後編



「休日は家族みんなで朝ごはん  
“僕・私を作る! アイデア朝ごはん  
コンテスト”」  
吉良公民館(愛知県西尾市)  
開催日:10月19日(土)  
参加者:愛知県酪農農業協同組合  
1名



## 「JA西三河 農業まつり2019」

JA西三河 事務センター(愛知県西尾市)  
開催日:10月19日(土)~20日(日)  
参加者:愛知県酪農農業協同組合 他 11名



## 「岡崎城下家康公秋まつり」

殿橋下流乙川河川敷(愛知県岡崎市)  
開催日:11月2日(土)~3日(日)  
参加者:愛知県酪農農業協同組合 他 6名



## 岐阜大学出前講義「酪農の現状と生乳流通制度の改革」

岐阜大学(岐阜県岐阜市)  
開催日:12月12日(休)  
参加者:岐阜県酪農農業協同組合連合会 1名



## 「令和元年度 畜産フェスタ」 愛知県青年の家

(愛知県岡崎市)  
開催日:10月22日(火)  
参加者:愛知県酪農農業協同組合 他 19名

## 「第14回 泉市民館まつり」

泉市民館(愛知県田原市)  
開催日:10月26日(土)  
参加者:愛知県酪農農業協同組合 他 3名



## 「第17回 田原市民まつり」

はなのき広場(愛知県田原市)  
開催日:10月27日(日)  
参加者:愛知県酪農農業協同組合 他 12名

## 名古屋 支所管内



### 「きらまつり2019」

吉良コミュニティ公園 (愛知県西尾市)

開催日: 11月9日(土)～10日(日)

参加者: 愛知県酪農農業協同組合 他 約7名



### 「第36回 武豊町産業まつり」

武豊町民会館 (愛知県多摩郡武豊町)

開催日: 11月9日(土)～10日(日)

参加者: 愛知県酪農農業協同組合 他 約15名



### 「阿久比町産業まつり」

阿久比町役場 (愛知県知多郡阿久比町)

開催日: 11月16日(土)～17日(日)

参加者: 愛知県酪農農業協同組合 他 13名



### 「乳業工場の見学・研修会」

大内山酪農農業協同組合 会議室 (三重県会郡大紀町)

開催日: 11月22日(金)

参加者: 大内山酪農農業協同組合 他 10名

### 「第73回 全国お茶まつり in 愛知」

西尾グラウンド (愛知県西尾市)

開催日: 11月16日(土)～17日(日)

参加者: 愛知県酪農農業協同組合 他 9名



## 大阪 支所管内



### 「サイエンスフェア2019」

あすたむらんど徳島 (徳島県板野郡板野町)

開催日: 11月3日(日)～11月4日(月)

参加者: 徳島県酪農青年女性会議 他 13名

# 全酪連会員職員 研修会

前編

全酪連では会員組織の機能強化及び職員のスキルアップを図ることを目的に今年も会員職員研修会を下記2か所にて開催しました。

## 東日本会場 研修内容

### 第1部 ハラスメント防止研修

《講師》 特定社会保険労務士  
ハラスメント防止コンサルタント  
(公益財団法人21世紀職業財団)

伊東 文子 氏

## 西日本会場 研修内容

### 第1部 誰もがイキキと働ける職場づくりのために ハラスメント防止の基礎知識

《講師》 公益財団法人21世紀職業財団  
客員講師

高山 里美 氏

第2部 国内生乳需給に広がる「カオス(混沌・無秩序)」を読み解く  
《講師》 酪農ジャーナリスト

稲葉 武洋 氏

## 1 ハラスメントとは…

「人を困らせること、嫌がらせ」、  
人権侵害であり犯罪行為である。

したがってやっていい人も、やられ  
て仕方ない人もいない。

個人の問題ではなく、労務管理  
上の安全配慮義務等の問題であり、

## 2 防止に関する最近の動き、 取り巻く現状と法的責任について

ハラスメントの申出をしたことを理  
由とした不利益な取り扱いが禁止さ  
れています。

労働施策総合推進法を改正して防  
止に取り組むことを企業の義務化と  
する。

(大企業は2020年4月、中小  
企業は2022年4月から)



▲ 東日本会場の様子



▲ 東日本会場 講師 伊東文子氏

### 防止策の例

- ・ 加害者への懲戒規定を作ること
- ・ 相談窓口を設けること
- ・ 事後の迅速・適切な対応などを想定
- ・ 取り組まない企業には行政指導・企業名公表できる
- ・ 事業主及び労働者はパワハラを理解し防止に努力すること(努力義務)
- ・ どんな行為がパワハラになるのか、「アウト」「セーフ」の事例集を作り具体的に示す

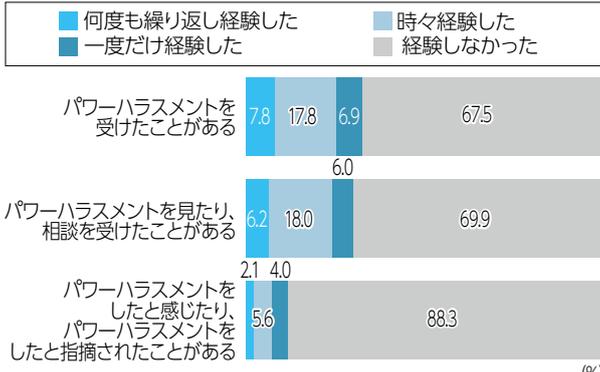
### 東日本会場

令和元年11月15日(金)  
東京八重洲ホール  
(東京都中央区)  
31名参加

### 西日本会場

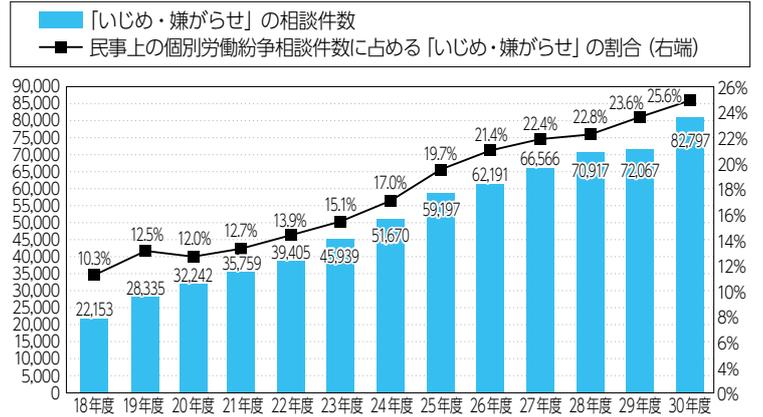
令和元年11月22日(金)  
オリエンタルホテル福岡博多ステーション  
(福岡市博多区)  
17名参加

## ●パワハラ経験数



(注) 数値はそれぞれ四捨五入しているため、内訳と計が一致しない場合がある。

## ●パワハラ相談件数



- 被害の記録（いつ、だれに、どこで、何をされたのか、どう感じたのか）
- 音声の録音、メモ、メール

### 4 法的責任を問うために証拠となるものとは



▲ 西日本会場 講師：高山里美氏

- 職場への影響
- 公になることによるブラックのレッテル、解決に時間と費用と人手がかかる、損害賠償

### 3 ハラスメントがもたらす影響とは

- 被害者への影響
- 人格を傷つけられる、パフォーマンスの低下、心身の不調、休職、退職、自殺
- 行為者への影響
- 降格、解雇処分、社会的地位を失う、控訴費用、時間の負担
- 周囲への影響
- 不安・不信、自身も行為者になる可能性

- 「本当なのか」「そんなことする人ではない」などの被害者を疑うような発言や「なぜ逃げなかったのか」「そのくらい笑い飛ばすくらい」の度量が必要だ」などと被害者を責めるような発言を決してしない

- 被害者のプライバシーを守ることでできる部屋で話をする
- 「よく話してくれたね」「あなたは悪くない」という受容的な言葉、態度で、被害者のペースに合わせて、結論を急がせることなく、ゆっくり話を聴く

### 5 相談を受けるときに気を付けること

- 相談する（相談記録が残る、相談を受けた人の証言）
- 診断書、被害がわかる写真
- 拒絶の意思を伝えた記録



▲ 西日本会場の様子

- 相談されたことを記録に取る（いつ・どこで・だれが・どのようなことをしたのか）
- 相談員や所属長などにつなぐ
- 心身の不調があれば専門医への受診を勧める
- 声かけを心がける

最後に、ハラスメントは、**予防がとて重要であり、職員の安全は組織で守る！**

次号では研修会後半の『国内生乳需給に広がる「カオス（混沌・無秩序）」を読み解く』。

講師 酪農ジャーナリスト 稲葉武洋氏に続く。

事務にたずさわる担当者の皆さんは熱心に説明を聞き、質問なども活発にできていました。長時間にわたる研修会でしたが、たくさんの方の参加に感謝です。

当研修会のご質問・資料請求のご希望がございましたら、

**全酪連 総務部  
組織対策課  
(03-5931-8003)**

もしくは各支所指導組織課までお問合せください。

大井牧場  
北海道雄武町

## 良質乳牧場後継者の挑戦 搾乳ロボットで家族の時間も大切に

北海道雄武町



この度訪問させていただいたのは北海道北東部、オホーツク海沿岸の雄武町にある大井牧場です。大井牧場の所属する北オホーツク農業協同組合（吉田隆好代表理事組台長）は、旧興部町農協と旧雄武農協との合併により平成24年2月に誕生した酪農を事業主体とする農協です。平成30年末時点の農家戸数は109戸、出荷乳量は90,823tとなっています。

### 牧場の概要

大井牧場は、経営主の秀幸さんご夫婦と後継者ご夫婦の4名で、搾乳牛76頭、育成牛80頭を飼養しています。牛舎はフリーストール、アブレストパーラーとなっており、グラスサイレージを主体とした経営を行っています。

この度お話を伺ったのは、後継者の龍兵さんです。龍兵さんは現

在31歳、本別の農業大学校を卒業後、就農されて8年になります。奥様の友美さんとは昨年ご結婚されました。



▲ 搾乳牛舎 手前チューブサイロ側にロボット1基設置予定

▲ 大井龍兵さん



▲牛舎内部 奥は放牧地へつながっている

## 自慢の乳質①搾乳

大井牧場の特筆すべき点は乳質です。組合が認定する良質乳優秀賞（前年度全ての定期検査において体細胞25・0万以下、生菌1・5万未満）を平成26年度から5年間毎年受賞されており、昨年1年の平均体細胞数は6・8万（組合平均19・5万）、今年さらさらに良くなり現時点で4・2万と非常に高い乳質を誇っています。高乳質のためにこだわっているのは過搾乳の防止、乳房炎の早期治

療、そして良質な自給粗飼料の給与です。

大井牧場は6頭のアブレストパーラーでの搾乳を行っています。搾乳が終わった分房は1本ずつミルカーにキャップをして過搾乳を防止しています。自動離脱に比べて非常に手間のかかる作業ですが、龍兵さんによると「やってみると、分房毎に搾乳終了時間は異なるもの、自動離脱は楽だが毎回どれかが過搾乳になっていることが分かる」とのこと。また、搾乳中は乳房の状態を観察し、少しでも乳房炎の予兆がある牛については早期治療を心掛けています。就農後、牛群を管理する中で体細胞が低いほど牛の状態が良いことを実感したことから、お父様の代で築いたこの搾乳方法を龍兵さんも継続しています。

## 自慢の乳質②粗飼料

搾乳と同じく重視している飼料については、グラスサイレージを主体に給与しています。高品質な粗飼料のために重要な収穫時期については、生育と天候を見極め、刈り取りは地域のコントラクターに依頼しています。サイロ（バンカー）及びチュー



▲状態の良い泌乳牛



▲良質乳生産者のステッカー優秀賞は5年連続受賞

ブ）詰めは大井牧場で行いますが、以前はバンカーサイロの二次発酵に頭を悩ませていました。そこで、牧草地から採取した乳酸菌を培養してサイレージに添加したところ、二次発酵や臭いがなくなったそうです。また穴の開きやすいチューブサイロでも、かびの侵食が抑えられていることを実感されているということです。

## ゆとりある酪農のためにチャレンジ!

それらに加えて本会の粗飼料分析を定期的に利用いただき、分析結果を参考に牛群と乳成分の状態にに応じてTMRを調整しています。本会の飼料設計結果を自分の設計と照らし合わせて微調整も行うなど、良質な粗飼料へのこだわりが高乳質・高泌乳を可能にしています。今年も悪天候だった昨年に比べ牧草の品質も良く、乳量は平均36kg/日まで上昇しています。

大井牧場は現経営主の秀幸さんを始めご家族4名で日々の作業に当たっていますが、近い将来秀幸さんから龍兵さんへ経営委譲されることが決まっています。ご両親の引退時期はまだ定かではありませんが、龍兵さんとしては、頑張ってきたご両親には好きな時に引退し、自分の時間を楽しんでほしいと考えています。また同様に奥様にも今後子育てなども含め自由な時間を確保してあげたいとの考えから、収入安定のための労働力として搾乳ロボットを導入を検討しています。現在搾りの76頭を90頭まで増頭し、パーラーで



▲ 清潔なバルク室

の搾乳を30頭、1時間以内とするのが短期的な計画です。背伸びはせず、資金計画を立ててまずは1台導入し動かしてみる。牛群や自分のスタイルに合うようであればそこから規模拡大を考えれば良い、というのが龍兵さんのスタンスです。

ロボットの選定にあたっては乳質維持を第一に、①装着スピード、②乳房と外気との不接触を重視し検討しています。それでも現在の搾乳手順よりは乳質の低下は免れないかもしれませんが、リスクを負ってほしいからの家族の時間やゆとりのほうが大切であると龍兵さんは考えています。初めてのことなのでやってみ

なければ分かりませんが、飼養形態が変わってもこれまでの高乳質高泌乳をできる限り維持すること、年間1,000t出荷することが現在の目標です。

### 得意分野を活かして夫婦で協力

奥様の友美さんは、元は事務のお仕事をされていた酪農初心者。龍兵さんとの結婚を決めた時に、経験もないからまずはやってみて、ダメなら考えようとのチャレンジ精神で就農されました。前職の経験とPCに強いことからデータ分析が得意で、これまでは手書きのメモであった繁殖データをExcelにおこし、見える化を図って繁殖改善に貢献しています。今後ロボットを導入するにあたり力強い戦力になるかも



▲ 良質な自給粗飼料づくりに強いこだわり

しれないなあ、と嬉しそうな龍兵さんです。

お二人に共通して感じたのは「まずはやってみよう」と言う考え方で、新しいもの未経験のものにも柔軟に対応していく姿勢でした。そしてそれぞれ得意分野を活かし、ご夫婦で協力しあっている様子がとても印象的でした。

### 仲間との交流を大切に

実は龍兵さん、農業大学校進学当時は後継者になるつもりはありませんでした。大学に入り出会った、後継者仲間から刺激をもらったと言います。2年間の養成課程の間に就農を決意し、そこからさらに2年間の研究課程に進み、酪農技術の勉強と、友達との自由な時間を楽しみ、卒業後に就農しました。同年代の仲間の存在は励みになるし、地域の話も聞けて面白いし情報交換になる。ヘルパーに来てもらえば実際に会いに行くこともできる、と現在も学生時代のご友人を大切にされていました。また、数年前には農協の青年部長も経験されており、最初引き受けた時は気が進まなかったけれど、やってみたら色々な出会いがありとても楽

しかったそう。他地域との交流や青年部婦人部と言った部会の縮小が進む中、貴重なお話を聞くことができました。

最後に、全酪連と20年以上お付き合いいただいている大井牧場に率直なご意見を聞いてみたところ、龍兵さんからは「僕はまだお付き合いは薄いですが、規模拡大や搾乳ロボット導入の計画にあたり勉強会や視察を開催してもらい感謝しています。餌を売るだけの企業ではないと思っていますよ。」とお褒めの言葉をいただきました。一方でお父様の秀幸さんからは、「技術支援と金銭的なサポートが必要。営業が迅速に対応し、技術顧問からの回答を持ってきてくれる現状には満足なので、あとは牛1頭当たりの給与メニューコストを抑えられるアイデアを出してもらいたい。」とのご要望をいただきました。どちらもありがたく受け止め、今後期待に込めていけるよう、そして大井牧場のご発展の一助となれるよう、全力でサポートさせていただきます。この度は大変お忙しいところ、取材にご協力くださり誠にありがとうございました。

**札幌  
支所発**
**全国大会発表者 千葉澄子さん語る  
「ワンチーム!の酪農経営」**

11月19日(火)に開催されたサツラク農業協同組合のサツラク婦人同志会50周年記念講演会において、今年の全国大会発表者である標茶町の千葉澄子さんが講演されました。

埼玉のサラリーマン家庭から嫁ぎ、多額の借入金のあった牧場をご家族とともに再建し、現在は指導農業士として、また農協役員として若い農業者を守り育てる活動に奮闘されている千葉さん。牧場では従業員・パート含む11名の「おかみ」として、誰もが責任を持って気持ちよく仕事ができる「ワンチーム」の酪農経営を実践しています。講演ではそれらのポイントとともに千葉さんが家族や従業員との関わりの中で大切にしている「コーチング」に触れ、「相手の立場に立って聴き、認め、励ます(褒める)ことが大切」「言葉は人を励ますことも傷つけることもある、身近な人ほど言葉遣いには気を遣おう」と話しました。これに対し続いて行われたディスカッションでは「話し合いの場を作るきっかけはどうしたらいいのか」「酪農経営

にコーチングを取り入れたいのだが、適切な書籍はあるか」「ミーティングで行き詰ったときはどうしているのか」などコーチングに関する多くの質問が上がり、参加者の高い関心が伺えました。千葉さんはこれらの質問に丁寧に答え、ディスカッションは予定時間いっぱいまで続けました。終了後、会場からは大きな拍手が送られ「千葉さんに来てもらえて良かった、活を入れてもらった」など感謝の声が聞かれました。

(T.H)


**仙台  
支所発**
**東北酪農青年女性会議  
「令和元年度秋季研修会」開催**

11月26日(火)宮城県仙台市の奥州秋保温泉「蘭亭」において、東北酪農青年女性会議(佐藤正仁委員長;福島県)主催の秋季研修会が開催されました。今年度の研修会は講演が二つ設定されており、会員酪農家を中心に48名の参加がありました。

最初の講演は「A2ミルクって何?」と題して、公立大学法人宮城大学 食産業学群の井上達志教授が講演されました。乳タンパク質の違いにより、A1ミルクとA2ミルクに分類され、それぞれを生産する乳牛に分かれる。確固たる見解はないものの、A2ミルクは人の体に優しいのかもしれないといった内容の講演でした。参加者の中には、既に乳牛のゲノム解析に取り組んでいるが、A2牛群を作るには時間がかかって大変といった意見もありました。

もう一つの講演は「消費税軽減税率制度について～青色申告に向けて～」と題して、仙台国税局 課税

第二部 消費税課 軽減税率制度係の佐々木和夫係長が講演されました。10月1日から消費税率が引き上げられ軽減税率制度が始まっていますが、改めてそのポイントを解説していただく内容でした。佐々木係長は、「溜めてしまうと分類が大変になるので、コツコツ記帳することが大事です。」と説かれました。女性の参加者が多かったのですが、熱心に聞いておられ、質問される方もおられました。

夕刻からは懇親会が開催されました。地元、みやぎの酪農協伊藤一成代表理事組合長(東北生乳販連会長)、宮城県酪農協一條光代表理事組合長も来賓として出席され、酪農談議や身の上話、食事をしながらの懇談は大いに盛り上がり、有意義な研修会になりました。(I.Y)



▲ 研修会の様子

仙台  
支所発

## 岩手県農業普及技術課と全酪連北東北事務所で共催 「牛舎設計支援技術者の育成研修会」

12月2日(月)に岩手県農業研究センター（岩手県北上市）において、岩手県農業改良普及技術課（農業革新支援担当 荻内謙吾課長）との共催により、「牛舎設計支援技術者の育成研修会」が開催されました。当日は県内酪農経営者・新規就農予定者、行政関係者、農業普及員、牛舎設計に関わる民間企業など36名が参加。7～8名編成の5グループに分かれ、①牛舎改修を前提とした新規就農予定酪農場への提案、②製図やデータ分析による改善案作成、など具体的な実農場2農場を課題に議論・思考トレーニングするワーク

ショップスタイルを展開。アドバイザーに技術顧問・村上明弘氏を迎え、意見交換を織り交ぜながら各テーブルで活発な意見発表・交換が行われました。

「従来の講義形式研修会とは一味違った刺激や学びがあった」「これを機にさらにスキルアップしたいと思った」「今後も繰り返し実施希望」など、非常に前向きな感想もいただきました。開催に向けて提案・相談いただいた岩手県農業普及技術課（農業革新支援担当）にこの場を借りて改めて感謝いたします。（T.K）



▲ アドバイザー村上技術顧問のアシスト



▲ 大型のスクリーンで意見交換



◀ 和やかな雰囲気で開催されました



▲ 岩手県からの説明と全酪連司会



▲ 議論の時間

名古屋  
支所発

## 愛知県酪農農業協同組合青年女性部 全体研修会「ソフトバレー」開催

愛知県酪農農業協同組合青年女性部（岩田周部長）主催の全体研修会「ソフトバレー」が、11月27日（水）



▲ 岩田部会長 開会挨拶

JA 愛知研修所体育館（愛知県岡崎市）にて総勢 27 名の酪農生産者、関係機関が参加して盛大に開催されました。

ソフトバレーは 6 人制で、選手は 2 チームに分かれて、3 戦 2 セット先取で競い合

ました。

日頃、酪農作業で鍛え上げた体力で、ボールを追いかけてコートの中をとこと狭しと軽快に疾走しました。

また付帯事業としてブローチ作りも同時開催で行い、参加した皆さんは思い思いの作品作りに挑戦し、交流を深めました。

また合わせて役員による意見交換会を行い、無事全体研修会を終えました。（T.K）



▲ ソフトバレー



▲ ブローチ作り



▲ 参加者の作品

名古屋  
支所発

## 美濃酪連東濃地区酪農女性部が 「牛乳料理交流会 第 2 弾」を開催

令和元年 11 月 19 日（火）東濃牧場「まきば館」にて、美濃酪連東濃地区酪農女性部（花田美知子）代表が、牛乳料理交流会を開催しました。

前は 7 月に 1 回目の料理交流会を開催し好評だった為、今回は恵那・中津川地域で新米がとれる時期に良く作る、いもち（新米と里芋で作るお餅）、牛乳入りとん汁、ヨーグルトを使ったタンドリーチキン、旬のさつまいもを使った大学いもとメニューも

この時期にしか食べられない物を選びました。

この地域だから食べられる伝承料理を牛乳とマッチさせる事で、牛乳料理の普及に頑張っています。とん汁一つをとっても、それぞれの家庭で色々な作り方があり、勉強になったと声を頂きました。「これからも牛乳料理の普及に頑張っていきます」と花田代表からお言葉を頂き、今後の活動につながっていく事を願っています。（I.K）



大 阪  
支所発全酪連近畿中四国酪農団体協議会  
令和元年度の研修会及び視察研修を開催

酪連中四国酪農団体協議会(岡田会長、19 会員)は、6月11日(火)に開催した第34回通常総会で、近年多発している大地震や豪雨による停電や断水また洪水は酪農業に甚大な被害をもたらしていることから令和元年度の事業を「災害時の危機管理」をテーマに活動することとし、以下の研修を行いました。

## 【研修会】

6月11日(火)通常総会終了後、(一財)関西電気保安協会企画部広報グループを講師に招き「電気の基本知識と地震対策について」と題して研修会を開催しました。

## 【管外視察研修】

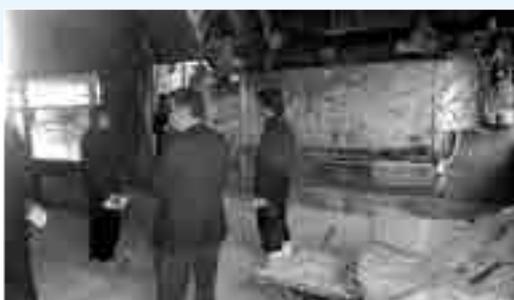
9月10日(火)～12日(休)の日程で、北海道十勝地区の土幌町農業協同組合とよつ葉乳業株式会社十勝主

管工場において、平成30年9月の胆振東部大地震により発生した全道ブラックアウト時での対応や取組みそして今後の課題等について研修を行いました。

## 【管内視察研修】

12月9日(月)・10(火)の日程で、当会員の広島県酪農協において、平成30年7月に発生した西日本豪雨時の「1滴の生乳も廃棄しない」という方針での取組み事例の研修と今後の対策について意見交換を行いました。また、広酪TMRを自動給餌機で給与する等の作業負荷軽減の取組み牧場の視察を行いました。

停電・断水・洪水などを引き起こす自然災害は避けることはできかねます。しかし、その知識を習得し備えをすることでいざという時の被害を少しでも小さくすること可能です。(K.I)



大 阪  
支所発

## 西日本酪農青年女性会議 「第26回酪友フォーラム」開催

11月27日(水)、西日本酪農青年女性会議(砂子拓也委員長)は、山口県下関市の「下関グランドホテル」において「第26回酪友フォーラム」を総勢72名の参加のもと開催しました。日本大学獣医学科の堀北哲也教授を講師に招き、「観察力と聴く力で乳房炎や子牛を何とかする！」をテーマに9マスマンダラート等によるグループワーク方式による研修を行いました。

第3部の「未来のワーク」では、第2部で研修し

た「乳房炎にならない」、「子牛に下痢させない」ためにすることを出し合った中から自分は1つ何をするかを宣言しました。そして、第1部で研修したパートナー同士が、令和2年1月1日に連絡を取り、それぞれすると宣言したことをしているか確認し合うこととしました。

今からその日が楽しみであり、宣言したことを実践されていることを願うばかりです。(K.I)



大 阪  
支所発

## 兵庫県酪農協 ふれあい酪農体験授業 「もう～もう～スクール」開催

11月29日(金)、兵庫県酪農農業協同組合(永田代表理事組合長)は、兵庫県立播磨農業高等学校畜産課の生徒をはじめ関係機関の協力を受け、今年度4校目となる小学生を対象としたふれあい酪農体験授業「もう～もう～スクール」を開催しました。

この「もう～もう～スクール」は、毎年継続して開催しており、今年兵庫県三田市立三輪小学校の3年生59名が授業を受けました。授業は、体育館で酪農教育ファームファシリテーターの西山さんの「酪農のお話」を聞き、そして、日本乳業協会の入口さんによる「牛乳

のお話とバター作り」を行った後、校庭において「哺乳体験」、「心音体験」、「模擬搾乳体験」を行ないました。

最後は、子供たちから牛や牛乳のことについて質問(何故、牛は白と黒の色をしているのですか等々)を受け、播磨農業高等学校畜産課の生徒さんが返答してくれました。一生懸命手を振って作ったバターは給食で試食したとのことでした。

酪農や牛乳のお話、実際にふれあいながらの体験を通じて、子供たちが食や命の大切さを感じ学んだ授業となりました。(K.I)



# 乳牛への油脂給与

## ～ エネルギー源だけではない～

全酪連は2020年2月にミシガン州立大学からアダム・ロック博士を招聘して、全国4会場にて全酪連酪農セミナー2020を開催いたします。同博士は、乳牛への脂肪酸給与に関する研究を行う一方、生産現場にも深く関わっており、研究成果の生産現場への普及に力を注がれています。今回のセミナーでは、脂肪酸の乳牛への給与や乳牛の脂肪酸代謝の最新の知見を基礎から応用まで幅広く紹介します。ワークショップでは、脂質給与に関する研究の最新情報と乳脂肪低下のトラブル・シューティングなどについてご紹介します。ぜひご参加ください。

### 講師紹介

#### アダム・ロック 博士

ミシガン州立大学  
農学部畜産学科 准教授



- |      |  |
|------|--|
| 学歴   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●1997：英国・ノッティンガム大学卒業</li> <li>●2001：同大学院で博士号取得</li> </ul>   |
| 職歴   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●2001-2003：ノッティンガム大学 博士研究員</li> <li>●2003-2006：コーネル大学 博士研究員</li> <li>●2006-2009：バーモント大学 助教授</li> <li>●2009-2014：ミシガン州立大学 助教授</li> <li>●2014- 現在：同大学 准教授<br/>(業務内容：研究6割、普及4割)</li> </ul> |
| 研究分野 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●乳牛における脂肪酸の消化吸収と代謝</li> <li>●戦略的な油脂添加剤の使用</li> <li>●乳脂肪低下と乳脂肪生成のメカニズム</li> <li>●生産性や人への健康に影響する生理活性脂肪酸</li> </ul>  |

### 酪農セミナー 2020

#### 序章 イン트로ダクション

##### 第1章 脂肪酸とは何か？

- ・脂肪酸基礎、脂肪酸とは？
- ・飼料中脂肪酸分析の重要性 他

##### 第2章 乳牛の脂質消化と代謝

- ・ルーメン内代謝とその影響
- ・脂肪酸の消化吸収と生体利用 他

#### 第3章 乳脂肪は如何にして合成されるか 我々は如何にしてそれを最大化させるか

- ・乳脂肪の原料と季節の影響
- ・乳脂肪低下の生物学
- ・乳脂肪低下のトラブルシューティング 他

#### 第4章 脂肪酸添加の可能性

- ・市販脂肪酸サプリメントの製品例
- ・脂肪酸サプリメントの効果
- ・産褥牛への脂肪酸給与 他

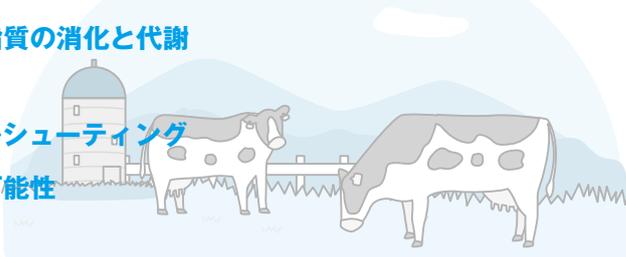
### ワークショップ 2020

#### WS 1 乳牛における飼料中脂質の消化と代謝

#### WS 2 乳脂肪の合成 乳脂肪低下のトラブルシューティング

#### WS 3 脂肪サプリメントの可能性

#### WS 4 脂肪酸と産褥牛栄養



### 開催日時と場所

※各会場とも開会は10:00、閉会は16:00の予定です。

2月25日(火)	熊本セミナー	菊南温泉 ユウベルホテル
2月26日(水)	岡山セミナー	岡山国際交流センター
2月28日(金)	札幌セミナー	ロイトン札幌
2月29日(土)	東京セミナー	ザ・グランドホール (品川グランドセントラルタワー内)
3月1日(日)	東京ワークショップ	ザ・グランドホール (品川グランドセントラルタワー内)

### ●参加費

1名様 ¥5,000 (対象者の方)

### ●対象

酪農家・組合役職員・公的指導機関、  
あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



# 酪政連活動報告

日本酪農  
政治連盟

令和元年 11月～12月

三役会議を開催(於:自由民主党)

中央委員会を開催(於:自由民主党)

・令和2年度畜産物価格及び関連対策に関する要請について協議

自由民主党酪政会が開催され、酪農をめぐる情勢について、  
令和元年度台風15・19号等における酪農等農林水産関係被害とその対応について、  
が協議される

大槻委員長より、令和2年度畜産物価格及び関連対策に関して要請

11/20



▲ 中央委員会の様子



▲ 挨拶をする森英介先生



▲ 酪政会で要請する  
大槻委員長

12/4

自民党 畜産・酪農対策委員会が開催され、  
委員長から「令和2年度畜産物価格及び  
関連対策」を要請する

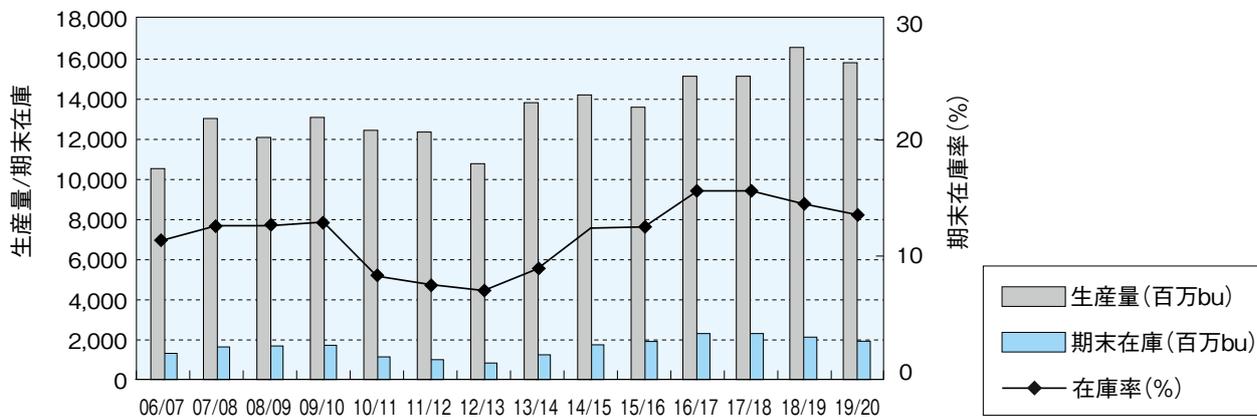
12/11

自民党農林・食料戦略調査会・  
同党農林部会・農政推進協議会合同会議が  
開催され、  
令和2年度畜産物価格等の決定報告が  
なされる  
委員長からお礼の挨拶を述べる

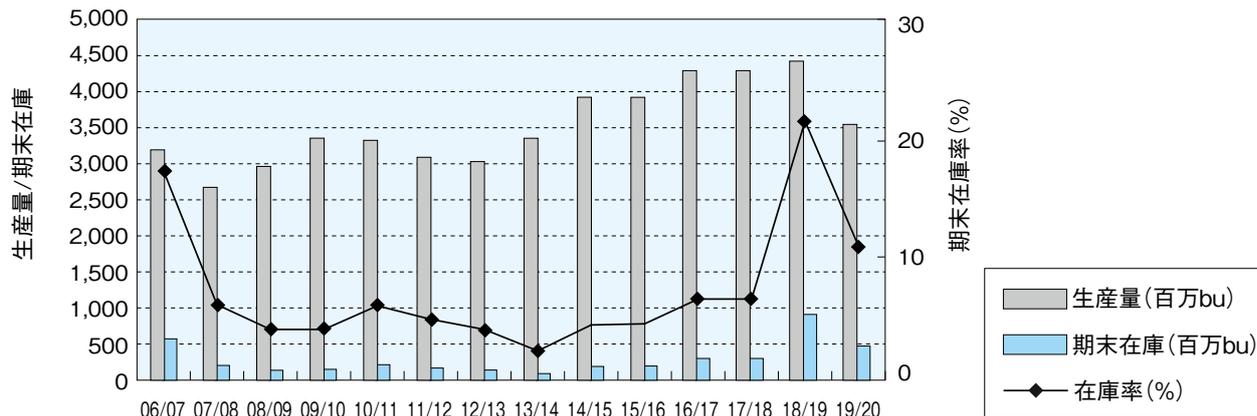


		18/19年産	19/20年産
12月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	89.1	89.9
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	176.4	167.0
	生 産 量 (ブッシェル)	165 億 8,800 万	158 億 2,500 万
	需 要 量 (ブッシェル)	144 億 7,400 万	139 億 1,500 万
	期末在庫 (ブッシェル)	21 億 1,400 万	19 億 1,000 万
	在 庫 率	14.6%	13.7%
トウモロコシ 相場動向	11/8USDA発表で、事前予想の期末在庫より米国産は上回り、全国では下回るという強弱が入り混じったことで、あまり値動きはなかったが、12/10USDA発表でも修正が入らなかったことから、作付け遅れを感じさせない例年並みの豊作予想となり、シカゴ市場は懐疑的ながらも軟化傾向。12/8時点の米国産コーンの収穫進捗は92%だが、北部での遅れが目立ち、収穫量の見直しにはもう少し時間が必要。		
大豆粕相場動向	シカゴ定期はブラジル産大豆の作付けが順調なことから、11/27にトランプ米大統領が香港人権・民主主義法案に署名したことにより米中貿易協議の先行き不透明感が強まり大豆粕は下落したが、12月に入り中国政府が米国産大豆について輸入関税を免除すると発表し相場は反発している。		
糟糠類	【一般フスマ】 製粉メーカーの小麦粉販売は前年割れで推移している。1月からの小麦価格の値下げに伴い年末に向けて挽砕量は減少する見込みで、需給はやや逼迫する懸念があるものの遠隔地への供給含め概ね安定している。		
	【グルテンフィード】 夏季の天候不順の影響から、国産グルテンフィードとグルテンミールの需給は非常に逼迫している。年明け後も各工場定期修繕に入るため2月いっぱいまで逼迫状況が続くものと見込まれる。中国産も春節を控え国内需要が旺盛となり需給は逼迫している。		
海上運賃	11月の海上運賃は軟調推移からの反発。西豪州積み極東向け鉄鉱石輸送の減退などで大型船を含む全ての荷動きが停滞し下げ基調だったが、年末年始にかけて需要が戻ってきたことやSOX規制の本格施行による燃料コスト上昇などで反発に転じている。		

### 米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



### 米国産大豆生産量と期末在庫の推移





# 輸入粗飼料の情勢

令和元年 12 月

北米コンテナ船 フレート	年末に向け米国西岸北部発(シアトル・タコマ・ポートランド)の航路では、船社によっては既に先々の船腹の予約が埋まっており、積出港での混雑や遅延の発生が懸念されています。米国西岸南部のロサンゼルス・ロングビーチ港では、米中貿易摩擦の影響で取扱量が大きく減っています。このため港湾事業者は港の稼働時間を短縮し、費用の削減を図り、取扱量の減少による損失を最小限に抑える動きを見せています。この稼働時間の短縮により貨物の搬入搬出も減少し、今後混雑や遅延が頻発する恐れがあります。また、2020年1月から重油に含まれる硫黄に対する環境規制が始まります。規制に伴うコストの増分は船会社及び牧草サプライヤーが吸収できうるものではなく、製品価格への転嫁は不可避なものとなります。
ビートパルプ	【米国産】 ミシガン州では収量予測が下方修正されています。11月下旬から1週間ほど悪天候が続き収穫作業を中断せざるを得ず、そのまま収穫シーズンを終了することになります。ノースダコタ州及びミネソタ州の北部から中部では、秋の記録的な大雨と冷涼な気候により約117,000エーカーの圃場で収穫を断念しました。これは当初収穫予想量の約33%に該当します。それ以外の圃場でも単収は例年よりも減少しています。ノースダコタ州東南部では、最終的な収穫量は報告されていませんが、状況は悪く収穫が放棄された圃場は全体の約13%と言われています。また、単収も過去5年間の平均より2.2MT/エーカー低いと予想されています。ミネソタ州中南部では、収穫期を通して天候不良に見舞われたことから、他地域と同様に収穫量は減少しました。このように各地域で収穫量は当初予想よりも減少しており、今後のビートパルプの供給量にも大きく影響してくると思われます。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、収穫期を通して天候に恵まれず、1番刈では50-70%が雨当たりの被害を受けました。降雨を避けた圃場でも、収穫された多くのものが刈遅れ品質となりました。2番刈以降も不安定な天候は続き、高い湿度と濃い霧の影響で変色(ブリーチ)の発生が多く、高成分・上級品の発生割合はシーズンを通して極めて限定的となりました。米国内の乳価は昨年の同時期に比べ約20%上昇しており、米国内酪農家からの需要は底堅く、中東からの需要も強く、加えて輸出向け品質の良品アルファルファが産地全体として不足していることから産地相場は上昇しています。
	【オレゴン州】 オレゴン州では収穫シーズンを通して天候に恵まれ、降雨による被害を受けたものは少なく上級品が多く収穫されました。1番刈では、冷涼な気候であったため茎のサイズが例年に比べ細めに仕上がっているのも見られました。2番刈以降では夜露が発生する日が多かったためブリーチが見られる圃場もありましたが、総じて高成分のものが収穫されました。産地相場は、米国内の他産地の作柄が不調だったこともあり、高品質のアルファルファの需要が国内外から集中しているため引き続き堅調に推移しています。
	【カリフォルニア州】 南部インペリアルバレーでは、一部圃場で今季最終盤となる収穫を行っています。産地では気温が低下しており、11月後半にかけて収穫されたもの一部では高成分のものも発生しています。中国向けの追加関税が撤回されて以降、中国からの需要は回復しており産地相場は高値で推移しています。
チモシー	【米国産】 主産地コロンビアベースン及びエレンズバーグの1番刈は天候に恵まれ上級品が多く発生しました。一方、2番刈は天候に恵まれず、多くが雨当たりの被害を受けました。産地の在庫は上級品については多くは成約済みで、中～低級品については一部のサプライヤーが余剰を抱えているようです。産地相場は収穫当初から昨年に比べ下がりましたが、生産者の生産意欲を減退させる結果となり、来期に向け作付面積は減少していくと予想されています。
	【カナダ産】 19年産の収穫は終了しています。レスブリッジ地区の1番刈は、収穫期の天候に恵まれたことから上級品が中心となりました。2番刈は、不安定な天候に見舞われ上級品の発生はごく一部で、多くは中低級品となっています。中部クレモナ地区では収穫期の天候が安定せず、比較的天候に恵まれた収穫期序盤に生産されたものは上級品中心、その後は天候の悪化により中低級品が中心となり、結果としてほとんどのグレードが満遍なく発生しました。産地相場は日本および韓国からの需要は安定した状態が続いているため、大きな変動は見られません。
スーダングラス	19年産の輸出向けスーダングラスの生産は終了しました。今年は収穫直前の気温が例年よりも低かったことから茎のサイズにバラツキが生じ、細茎の上級品の発生は当初の予想よりも少なくなりました。また、今夏は湿度が高くなり始めたのが7月下旬と遅く、その結果、湿気の影響を受けて発生する色抜け品の発生も例年よりも少なくなりました。産地相場は日本からの安定的な需要を背景に総じて堅調に推移していますが、低級品については、需要が強く相場は上昇しており、すでに産地側でも生産農家の在庫はなく、サプライヤー在庫もほとんどない状況で追加買付は難しい状況となっています。
クレイングラス	<b>クレインは全酪連の登録商標です。</b> 主産地インペリアルバレーでは19年産の生産は終了しています。11月15日時点の作付面積は前年同期比110%(22,376エーカー)と好調な産地相場を背景に増加しており、来期も天候が例年並みであれば安定的な供給が期待できそうです。19年産は収穫期を通して天候は安定していたため、総じて良品が多く発生した年と言えます。日本および韓国からの需要は引き続き強く、産地相場は堅調なまま推移しています。
ストロー類	主産地オレゴン州ウィラメットバレーでは、2019年は天候に恵まれず全体的に降雨の被害が多く非常に厳しい年となりました。ペレニアルライグラスについては、約11%作付面積が減少しました。フェスクは8.5%作付面積が増加しましたが、今年は多くが雨当たりになりました。台風の影響で自給飼料への被害があった日本、韓国の両国からの需要が非常に強く、産地価格は上昇しています。
オーツヘイ	【西豪州産】 西豪州は全体を通して降水量が少ない年でした。このため、総じて例年よりも単収は少なくなりました。品質については、西豪州全体では色が緑色で綺麗なものが多い傾向ですが、一部では茶葉が目立つ原料草もあります。上級品の生産量は十分ですが、中級品から低級品の供給力は限定的なようです。西豪州全体では概ね60-70%が上級品、中級品は30%程度、低級品の発生はほぼゼロに近い状況です。
	【南豪州産】 南豪州では、生育期を通して例年よりも降水量が少なく、収穫直前の9月までその傾向が続いたため、大きく単収が減少することが懸念されていましたが、実際の単収は地域によって大きく差が出ています。このため、品質については茎の太さや色目、茶葉の混入割合など地域によってバラつきが大きくなりそうです。南豪州においても、収穫期全般を通して天候に恵まれたことから、ほとんどが上級品となっており、中低級品の発生は限定的となっています。
	【東豪州産】 地域によって降水量の差はあったものの、単収は5~7t/haと当初の予想よりも多くなっています。品質は良好で、成分も高く色もきれいなものも発生していますが、地域によっては降水量に起因する生育の差があったことから、茎質や茎サイズにバラつきがあるようです。東豪州でも発生した中心は70-80%が上級品となっており、中級品が20-30%、雨当たりなどの低級品はほぼ発生していないようです。
	豪州航路についても北米同様、1月から実施される重油に含まれる硫黄に対する環境規制に伴う海上運賃の上昇の影響は免れず、今後の価格に反映されると考えられます。このため、産地価格は総じて昨年に比べ弱含みであることは確かながら、サプライヤーから見た輸出価格はまだ流動的といえます。

# 栄えある秋の 叙勲・褒章



## ●瑞宝小授章●

坂本 壽文 氏

元 全国酪農業協同組合連合会 代表理事専務

元 農林水産省 九州農政局生産経営部長



## ●旭日単光章●

赤松 省一 氏

現 香川県酪農部会 部会長

現 香川県農業協同組合 生乳受託販売推進協議会 会長

現 有限会社赤松牧場 代表取締役



## ●旭日単光章●

池田 喜久子 氏

現 有限会社池田牧場 取締役



## ●旭日単光章●

高野 秀策 氏

元 仙台農業協同組合 代表理事組合長



## ●黄綬褒章●

大森 敏雄 氏

現 有限会社大森カウステーション 代表取締役

元 ゆうき青森農業協同組合 理事

政府は11月2日に褒章受章者、3日に叙勲受章者を発表しました。  
全酪連及び酪農関係からは、次の方々を受章の名誉に輝きました。心からお祝い申し上げますとともに、益々のご活躍をお祈りいたします。

# 乳牛産地情報

令和2年1月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▲……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	38~45	▲	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で103.3%、累計で98.8%、苫小牧管内月計で101.6%、累計で98.6%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩予定中心で動くものと思われま。12月の同地域の乳牛市場は強含みの相場展開をみせ、スソ物を含め全体が上がり、庭先購買で選ぶ初妊牛も高値になると思われま。資源状況としましては、雌雄選別・F1共に十分に確保できるものと思われま。育成牛につきましても、12月の市場では強含みの相場だったため、これまでの価格より高値での取引となると思われま。
	初妊牛	75~85	▲	
	経産牛	50~60	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	40~50	▲	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.1%、累計で100.4%、中標津管内月計で103.1%、累計で102.9%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月上旬分娩予定中心で動くものと思われま。12月の管内乳牛市場が強含みで成立も高いものとなったため、1月庭先購買価格も同様の動きを見せるものと思われま。資源状況は増加傾向にはありますが、春産みを求める動きが例年通り強いことが予想されますので、さらに価格が上昇する可能性もあります。腹別での大きな価格差はなくなってきており、これまでやや軟調で動いていた雌雄選別も堅調になってきました。初妊牛の動向と合わせて、育成牛・経産牛も堅調な動きになってきています。
	初妊牛	70~80	▲	
	経産牛	47~57	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~47	▲	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.1%、累計で103.6%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩予定中心で動くものと思われま。12月乳牛市場が強含みで推移し、春産みの需要も高いため、庭先購買価格も強含みで動くものと思われま。ここ数か月は軟調な動きを見せていた和牛受精卵移植も12月は強含みの相場となりましたので、庭先購買価格も同様の動きとなるものと思われま。しかしながら、資源状況としては、昨年と比較すると増加傾向にあるので、価格も昨年同月ほどの高値にはならないと予想します。
	初妊牛	75~85	▲	
	経産牛	50~60	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	37~43	▲	道北管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.1%、累計で100.1%、北見管内では月計で100.4%、累計で101.2%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月中旬~4月分娩予定が中心に動くと思われま。管内である豊富・北見乳牛市場の12月相場は道内需要が活発になり、F1腹の価格に引っ張られる形で雌雄選別腹の価格も上昇する結果となりました。昨年比では資源は増えていますが、今後も春分娩需要が見込まれるため、やや強含みで推移すると思われま。育成牛も春産み可能な月齢の需要は増えている状態で、初妊牛同様やや強含みで推移するものと思われま。
	初妊牛	72~82	▲	
	経産牛	45~53	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	40~50	▲	道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は102.3%、累計で102.0%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、需要が高い3~4月分娩予定の春産みとなってきます。資源は豊富にあるものの、12月相場が強含みで推移したことや、道内のギガファームの導入意欲も活発であることから更に強く推移するものと思われま、腹別での大きな価格差は無くなってきております。また、育成牛、経産牛とも堅調な状況となっております。相場の変動がある中ではございますが、今後、導入予定がございましたら、お早目のご相談・ご注文をお願い致します。弊会と致しましては、相場動向に注視しながら庭先選購買を中心に安定的に搾乳素牛を供給していきますので宜しくお願い致します。
	初妊牛	75~85	▲	
	経産牛	47~57	▲	

## 今月の表紙

今月の表紙は「第10回酪農いきいきフォトコンテスト」(第48回全国大会にて開催)で応募頂いた作品『じいちゃんの孫ヘルパーです。』(佐賀県酪農婦人部連絡協議会 神埼地区 早田千幸氏 撮影)です。



## 編集後記

- 新年あけましておめでとうございます。皆様には、晴れやかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。2020年、いよいよ東京オリンピックの開催です。皆様に喜んでいただける内容で全酪連会報をお届けできるように尽力して参ります。本年も宜しくお願い致します。



令和2年1月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 1月号 No.652

- 編集・発行人 戸辺誠司
- 発行 全国酪農協同組合連合会  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館  
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくらくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



うし

郡山市立行健第二小学校(東北)2年 岩谷 萌衣

今月の入賞作品は…

郡山市立行健第二小学校(東北)2年の岩谷 萌衣さんの作品です。

こちらの様子が気になってゆっくり歩み寄ってくるかのような牛さんの動きが絵から伝わってきます。クレヨンと絵の具で描かれた硬質な牛さんに対して、大地の緑色の筆跡や空の青色の粗いストロークによる自由な筆跡によって、牧場の生き生きとした空気感が見事に表されています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第46回らくのうこどもギャラリー」で全国683点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議